

○閉会あいさつ

(曾根)

最後に閉会のあいさつといたしまして、国総研の環境研究部長の福田から最後のあいさつを申し上げますのでよろしくお願いします。

(福田)

国土技術政策総合研究所の環境研究部長をしております福田でございます。本日はお忙しい中を多数お集まりいただきまして、ありがとうございます。

フランスの Courtemanche 氏には1%制度の話、イタリアの Ugo 先生にはオルチャ溪谷の文化歴史を踏まえた計画の話、ドイツの Tielebörger さんには住民主導の休暇街道のお話をいただきました。大変ありがとうございました。この中でいろいろ制度、予算、地域の参加などいろいろお話をいただいたわけですが、地域の住民、団体の積極的な活動というのが非常に重要だということが改めてわかったところです。今、日本でも住民参加ということについてはかなり苦労しているところもございますので、若干長い質問をしたりして大変恐縮でしたが、大変勉強になりました。

話は変わりますけれども、日本では先週の金曜日に安倍総理大臣が施政方針演説の中で内閣が目指すこれからの日本の姿という中に、「美しい国、日本」というのを非常に強調しているところであります。今年を美しい国づくり元年ということにしようと言っておりまして、国土交通省では3年前に景観法というのを作りまして、その中で景観のいい国づくりをしていこうということを言っていたわけですが、それが日本全体になってきたということです。

ただ、振り返ってみますと130年ぐらい前に、イギリス人の女性の旅行家イザベラ・バードとか、ほかの外交官などがたくさん来たときに、日本は非常に美しい国だということをいろんなところで書いてあります。130年前に美しかった国が近代化の中でどうなってきたのかということを我々は考えなければいけないわけですが、そういう中でこの美しい国づくり元年の1月にこういうセミナーが設けられたということは、非常に意味のある、また非常にタイムリーなことだったと、若干自画自賛になりますが、そう思っているところです。

本当に今日はいろいろ勉強になりまして、これから皆さんと一緒にまた美しい国づくり、いい道づくり、いい地域づくりをやりたいと考えております。よろしくお願いしたいと思います。改めましてお三方にお礼を申し上げます。閉会のごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

(拍手)

(曾根)

それではこれで終わりにしたいと思います。それではこれをもちまして「欧州の風景と地域づくりセミナー」を閉会したいと思います。最後にもう一度、今日発表していただいた方に拍手をお願いします。それでは閉会いたします、どうもありがとうございました。

(拍手)

